11月 12月 イベント

秋はイベントで
出会いと交流を
冬は講座で、リスク
マネジメントを学ぼう！

●おいしい　たのしい

ちばユニバーサル農業フェスタ 2015

日時：11 月 23 日（月・祝）10:00～15:00
場所：四街道市文化センター（駐車場・広場・屋内）
雨天は屋内で開催

さまざまな人が農業を通じて出会い、交流し、はたらきあう、新しい農業のかたち「ユニバーサル農業」の考え方を広め、出会いの場を提供するフェスタです。
販売：採れたて野菜、手作り加工品、ランチ＆スイーツ、手作り雑貨。NPO クラブは「浪江焼きそば」
体験：ヤギとあそぼう、小鳥の巣箱づくりなど
園芸・栽培相談、ユニバーサル就労システム導入相談

ちばユニバーサル農業フェスタ開催事業（この事業は公益財団法人地域社会振興財団から助成金の交付を受け長寿社会づくりソフト事業として実施します）
主催：ちばユニバーサル農業フェスタ実行委員会
協力：みんなで地域づくりセンター、四街道市地域振興財団　後援：一般財団法人地域活性化センター
問合せ：NPO 法人地域創造ネットワークちば
TEL 043-270-5601
E-mail souzounet@coast.ocn.ne.jp

●東日本大震災被災者支援・東北復興応援イベント

「縁 joy・東北」2015

日時：11 月 28 日（土）10:00～15:00
場所：きぼーる広場（アトリウム）
　千葉市中央区 4 丁目 5 番 1 号

ステージ：篠笛、民謡（原田直之さん）他
販売：福島県、宮城県、岩手県の物産販売、千葉県に暮らす避難者の手芸品、黒毛和牛の牛丼、県内支援団体の手作り品、農産加工品
手作り体験、ウルトラヒーローがやってくる！、親子であそぼ、被災地職員参加テーブルを囲んで交流
被災者と支援者のための法律・住宅・健康相談
DVD 上映（原発事故現場で活躍するロボット）
どなたでも気軽にお立ち寄りください。千葉に避難されている方は、事前にお知らせ頂けるとうれしいです。
平成 27 年福島県ふるさと・きずな維持・再生支援事業

主催：「縁 joy・東北」2015 実行委員会
協力：千葉県内支援団体、千葉県在住福島県人会、チームキビタン、千葉工業大学
問合せ：NPO クラブ　TEL 043-303-1688
E-mail：npo-club@par.odn.ne.jp

●NPO・ボランティアグループのための　マイナンバー制度基礎セミナー

日時：12 月 2 日（水）13:30～16:00　場所：千葉市ビジネス支援センター会議室 4（千葉市きぼーる 15F）

10 月から個人番号の通知も始まった「マイナンバー制度」は、NPO やボランティアグループにも税務や労務で大きく関係してきます。どんな制度か、どんな場面で使うのか、NPO 特有の注意点について理解し、リスクマネジメント等、団体の運営力向上につなげます。専門家がわかりやすく解説します。
講師：関口宏聡さん（NPO 法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会代表理事）小笠原明子さん（税理士）
対象：NPO 法人・ボランティアグループの役員・職員、NPO 支援組織や行政の担当者、専門家（税理士、社労士等）
参加費：3000 円　定員：30 名（申込み先着順）
主催・申込み：NPO クラブ TEL 043-303-1688　FAX 043-303-1689　E-mail npo-club@par.odn.ne.jp

≪編集・発行≫
特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ（NPOクラブ）　TEL 043-303-1688　FAX 043-303-1689
〒261-0011　千葉県千葉市美浜区真砂 5-21-12　E-mail npo-club@par.odn.ne.jp　URL http://npoclub.com/
運営会員 23・一般会員 131　発行 1,000 部　会員・県内市民活動センター・自治体等に送付しています。

News Letter
つぎのいっぽくん
Vol.54
2015.11
特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ（NPOクラブ）

地域包括ケアの推進は地域づくり活動のひとつ

高齢になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けたいという願いは、
もうひとつの地域福祉の担い手として、市民・NPOに期待されています。

団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年に向けて、高齢者が住み慣れた地域で生活できるように、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築の実現が求められています。その中で、生活支援・介護予防は、特に市民や NPO の果たす役割が大きいところです。

今年度、介護保険制度が改訂され、最も身近な変更点として、「要支援 1、2」の「訪問介護（ホームヘルプサービス）」「通所介護（デイサービス）」は、介護保険制度の予防給付（全国一律の基準）から外れ、市町村が地域の実情に応じた取り組みができる、新地域支援事業に移行します。

2017 年 4 月実施まで猶予期間とされる中、各自治体で計画策定がすすめられています。これまで介護保険制度により全国一律で提供されたサービスが、地域によって違いがでることになります。

今後、生活支援サービスの充実は、介護保険事業所による既存のサービスに加えて、地域福祉の担い手と期待される市民・NPO など地域の多様な主体に委ねられているといえます。

見守り・安否確認、居場所・サロンの運営、日常生活支援などのサービスは、小学校区等のコミュニティでこそ機能するもので、地域で多くの担い手の確保が課題となります。

暮らしやすさ、安心感につながる課題解決型の地域づくり活動を地域の人々とともに主体的に進めてきた NPO をはじめとする市民活動団体にはこれまで以上の期待が寄せられています。

NPO クラブで昨年から取組んでいる多世代交流拠点「おおなみこなみ」運営事業は、検見川町近隣の住民に認知され、活用されるようになってきたところです。この 1 年活動する中で、「場」を管理運営することの課題も見えてきました。それは、運営スタッフの人材育成や運営経費のこと、住民の主体性をどう育てるのかなどの課題です。

これから、ますます必要とされる「居場所」づくり活動の運営課題を共有し、今後各地域で展開される新たな活動の可能性を広げていきましょう。

おおなみこなみ 「健康貯筋体操」

多世代交流をテーマとした居場所づくり

学びと遊びのホットスペース「おおなみこなみ」

「多様な世代が交流し、それぞれが持つ能力を活用し合うことで困難を解決すること」を目的に、2014 年 9 月に千葉市花見川区検見川町にオープン。9 月からの 1 年間の来所者数は 3,881 人。シニア世代を中心に、子どもたち、子育て世代といった様々な年代の人たちが来所、地域の交流スペースとしての役割を果たしつつあります。

交流スペース(14 人掛けの大きなテーブル 1 つと 4 人掛けの小さなテーブル 2 つを常設)と子どもコーナー「おやこカフェけみがわ」(300 冊の絵本やおもちゃを常備)が設置されています。第 2、第 4 金曜日に開催する「健康貯筋体操」は、毎回 20 名前後の参加があります。10 時 30 分の開催時間に合わせて、検見川町の通りにおばあちゃんたちの歩く姿が見られます。第 1 金曜日に開催の「折り紙講座」、第 3 金曜日に開催の「アクア体操」とあわせて、シニア向けの定番講座となっています。そのほか、子どもたち、子育て世代を主な対象にした人形劇やパネルシアター、「女性のための起業講座」といった社会的ニーズに沿った講座も開催しています。また、検見川の昔を記録した写真の展示や「ご近所の演奏家」の皆さんによるコンサートを開催、地域の人たちが主役になれる機会を作ってきました。

県内の福祉事業所の物品や NPO 法人日本ファイバーリサイクル連帯協議会(JFSA)のリサイクル衣料品の販売、ギャラリーボックスの運営などを行い、地域の人たちに福祉事業所や JFSA の事業趣旨を伝えるとともに、販売収入を得ています。また、毎週金曜日には、生活クラブ生協の移動販売車がおおなみこなみ前に停まり、生鮮品の販売を行い好評です。

「女性のための起業講座」

有料で飲み物(ドリップコーヒー200 円、リンゴジュース 150 円など)を提供しています。散歩がてらに、グループでのミーティングに、講座の開催に、ニーズに沿って活用できます。「使ってみたい！」と思われたら、お問い合わせください。

今後、地域に、「おおなみこなみ」のように「気軽におしゃべりができて、年代を超えて交流できる場所」が増えていくことを願っています。

〈地域の皆さんからのメッセージ〉

・ここは、友だちとくるのにちょうどいい!! イベントてきなものもあり、「すーっ」とおちついたり。宿題もできるし、あそべるし、ゆったりできていいです。(小学 4 年生)

・子どもが幼稚園に行っている間に学べる企画があったり、週末に子どもを楽しませるイベントがあったり、1 週間のうち、顔を出さない事の方が少ないかも？年齢を問わず、お顔を合わせてあいさつする間柄の方が増えました。

・「おおなみこなみ」に来てからとても楽しく、皆さまとのふれあいで、自分自身変わったこと、感謝しております。これからもよろしくお願いいたします。

生協の移動販売車

多世代交流拠点「おおなみこなみ」
火曜日～土曜日 10：30～17：00 オープン
(日、月、祝日を除く)
千葉市花見川区検見川町 3 丁目 159-2
TEL　070-2157-1673
E-mail　ohnamikonami2014@gmail.com

自分のカフェ　イメージづくり

継続的で豊かな活動の「場」をつくるには？

コミュニティを支えるために「地域の居場所」が求められています。四街道市みんなで地域づくりセンターでは、居場所づくりを考えている人の後押しをしようと、地域づくりサロン「コミュニティカフェをつくろう！」(全 4 回)を開催。その第 3 回「自分のカフェ イメージづくり」に、NPO 法人れんげ舎代表の長田英史(おさだてるちか)さんをお招きして、「場づくり」という観点からお話を伺いました。そのポイントをご紹介します。

「こういう場をつくりたい」と本音で考えること

地域のお年寄りも小さな子も若い人も中学生も外国人も、みんなに来てほしいと万能な「場」をつくることは難しく、結局だれのためにもならないということになります。「自分はこういう場をつくりたい」と、建前でなく本音で考えることが大切です。実践の場づくりでは本音こそ力になります。

普通に生活している市民が、こんなことがあったらいいのにと思うことに実際にトライしてみることで、公的機関などがキャッチできない、たくさんの課題が解決されていくことがあるのです。

フラットな組織を運営するには？(信頼でつながる)

コミュニティカフェをつくって、1 人からグループで活動を始めると運営の難易度が高くなります。その時は、どうすればよいのでしょうか。コミュニティカフェなど市民団体の多くは、メンバー全員が決定権を持ち、会議を開いて意思決定するフラットな組織であり、会議のやり方が非常に大事なのです。

・いちばん大事なことは会議のルールを共有すること

会議で全員が「同じ考え」にはならないが、「全員納得で決める」ことはできるのです。そのためには、納得がいくプロセスをつくれているかどうかがカギになります。

会議の意思決定フロー　基本の 5 ステップ

1 提案－なんのために、なにをしたいのか？目的と方法を全員で共有する
2 質問－提案者の動機や提案内容を、全員が完全に理解する
3 意見－提案に対してリアクションし、さらによい案がないか議論する
4 修正－議論の結果、提案が修正されたら、その内容を確認する
5 承認－全員で最終確認をし、議長の宣言を持って決定する

(長田英史さん講義資料より)

・会議がよくなれば、活動がよくなる！

会議の場をしっかりつくって、会議の場を通して現場をつくっていく。そのために、参加する一人一人が、本当に思ったことを言うこと、陰口を陰口で終わらせないで、会議の場に戻すことが大事です。

人と関わって場づくりをする時は、できるだけ率直に、自分はこう思うが相手はどう思うかとやり取りをすることです。そうすると、自分の考えが変わり、もっといい方法があると気づいたり、一人でやるよりみんなでやる方がすごいと感じられるようになります。

そのように一人一人の内面と活動の場をつなげていくことが、最終的に豊かな場をつくり、自分が納得して活動を続けていけることにつながっていくのです。

これからカフェを立ち上げる方へ

コミュニティカフェをつくるために、これから仲間を見つけようというときは、必ず、それを**口に出して言う**ことです。そして、まだ自分の内側にしかないときは、自分がどんなカフェをつくりたいかを書きとめる**ノートをつくったり**、個人で**ニュースを書いて人に見せたりする**とよいのです。インターネットでもよいです。

そのようにして、目指すことの「旗が立つ」ことで、遠ざかっていく人もいるかもしれませんが、出会うべき人に出会え、いっしょにやりたいという人も出てくるのです。

肝心なことは、周りに合わせて、自分が思ってもいないことを言ったり表現したりしないこと。 これは、コミュニティカフェに限らず、とても大事なことなのです。

長田英史(おさだてるちか)さん　NPO 法人れんげ舎代表、まちだ NPO 法人連合会会長
NPO 法人れんげ舎発行 メルマガ「場づくりのチカラ」 http://bazukuri.jp/